
僕の姫サマ。

うきわ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の姫サマ。

【Nコード】

N9637U

【作者名】

うきわ

【あらすじ】

厚い、幼馴染という壁。近くて遠い、そんな関係。でも僕は彼女がずっと好きで。そんな少年と少女のすれ違いラブです。

長い間ずっと想っていた。

向日葵みたいに元気に笑う君が好きで、好きで。

だけど。

君は僕の気持ちなんか知らずに今日も隣で笑っているんだ。

幼馴染という、厚い壁。

近くて遠い、そんな関係。

朝。

[illegible]

きた。彼女のお出ましだ。

「カッケルーーーー！！朝だよグツモーニン！！起つき
ろーーーー！！」

ばーん。・・・ああ、僕の部屋のドアが・・・。ついに、壊れた・・・。

まるで面子でも打ちつけるように床になぎ倒す。

「はいはい。起きてる、起きてるってば……。」

まだ重たい体をゆっくりと起こす。ああ、この起こし方はどうかと思うけど。

なんだかもう、慣れてしまっていた。

「つていうか、陽毬ひまりどうすんだよ。このドア。オマエ壊すの何回目だよ」

ああ、ほんと。なんだかなあ……。

「そんなの知らないわ。壊れるこのドアが悪いんじゃない？」

陽毬は、フンツと鼻を鳴らす。

「それに毎朝起きないカケルも悪い。私はなにも悪くないわ」

みろ、この女王っぷり。姫……というより、もう女王なんじゃないすかね？

たしかに、起きない僕も悪いけど……。

「壊すことはないんじゃない……？」

僕は陽毬に壊されて横になっている3代目マイ・ルーム・ドアをみやった。

「はあ？」

ギロツ。まさにそんな効果音がぴったりなくらい睨まれた。

・・・怖えー。陽毬サン、超怖えー。。。。

「早く仕度しなさいよ！学校遅れる気？今日から高校生なのよ！？」

陽毬がバツと勢いよく立ち上がる。

「・・・入学式に遅刻とか、超ありえないから」

そうすると陽毬は自分のカバンを持って外にしようとする。

「ままま、まって！まって！！」

僕は急いで着替えて家を出た。

彼女のカバンには昔僕が彼女にあげた、

可愛さのカケラもない、酢コンブのキャラクターストラップが揺れていた。

まあ、彼女が気に入っているならいいけど。

僕のカバンにもまた、色違いのものがついている。

鳥が鳴く。風が横を通り抜ける。照りつける太陽。木の陰を通り抜ける。

今日からもう高校生。

僕は今日も彼女の背中を追いかけていた。

（後書き）

この作品が初小説です。どヘタですが、心をこめて書いていきます。
たくさんの方に読んでいただきたいと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9637u/>

僕の姫サマ。

2011年10月9日11時33分発行